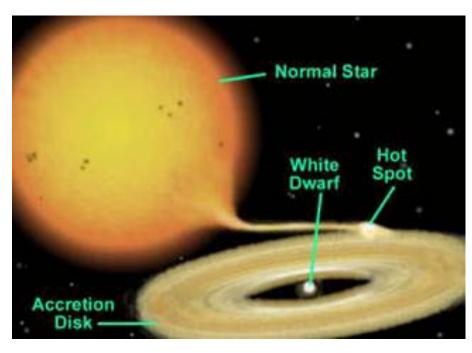
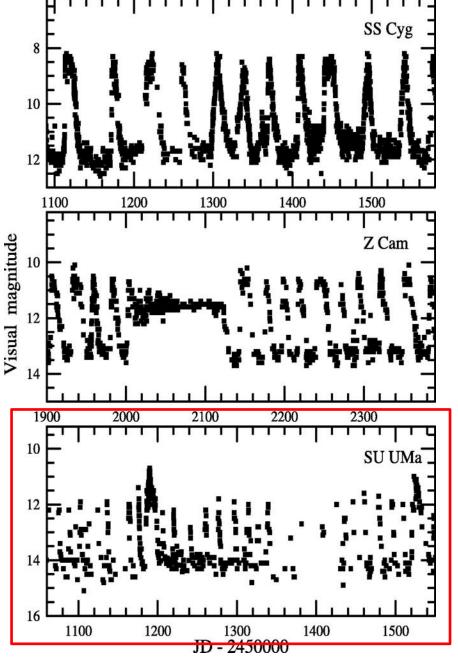
## From positive to negative

# 今田 明 (国立天文台岡山)

#### 矮新星

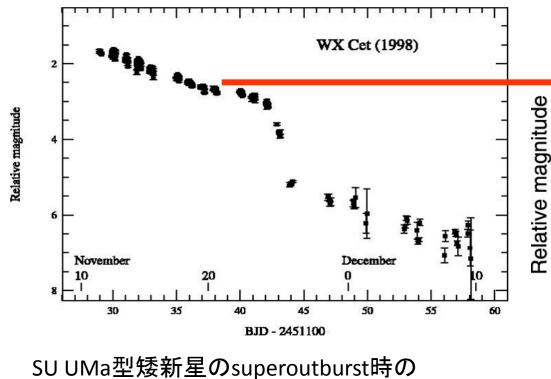
- 軌道周期およそ1~9時間の近接連星系。
- 時々outburstを起こす。
- 光度曲線の違いから3種 類に分類。





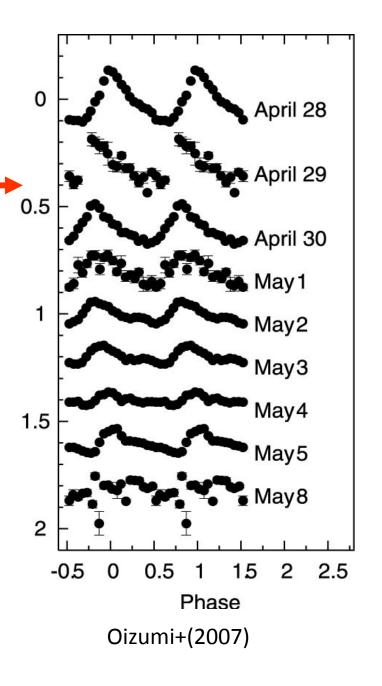
Kato+ (2004)

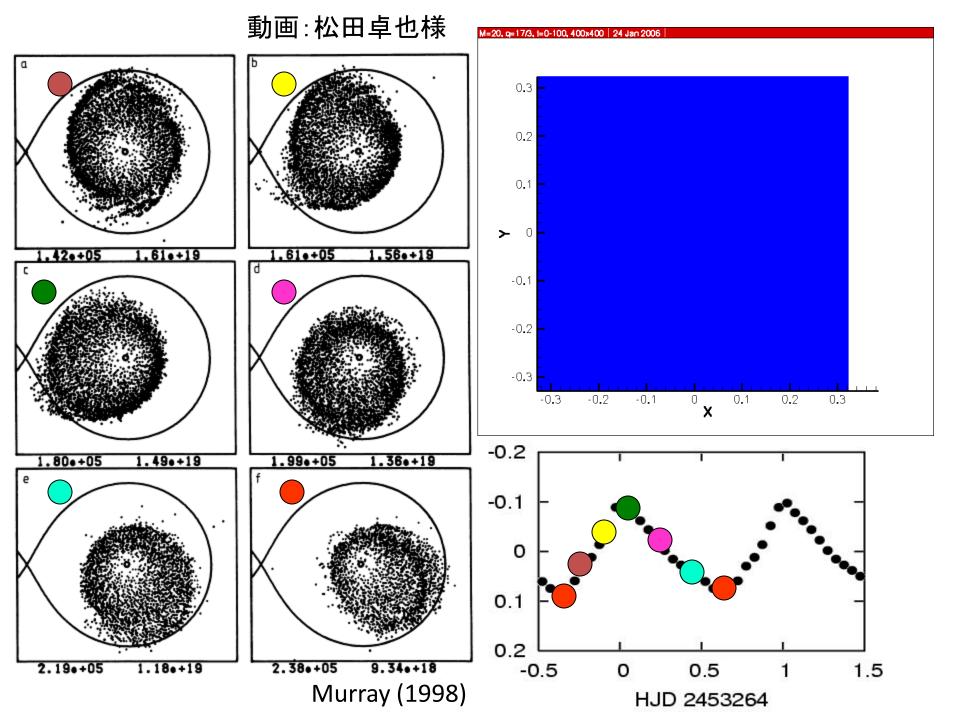




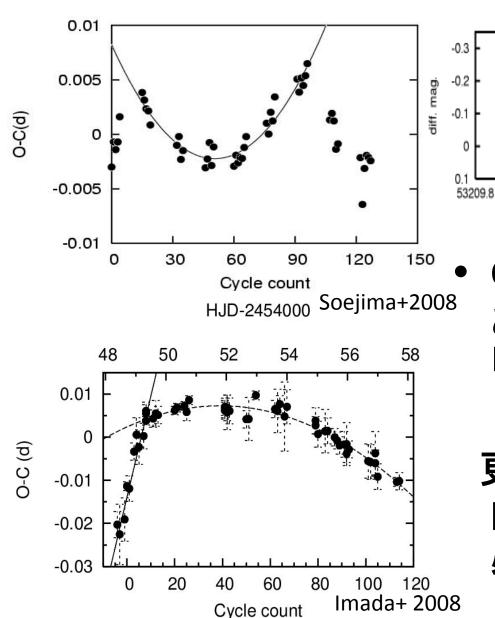
SU UMa型矮新星のsuperoutburst時の 光度曲線 (Kato +(2002))

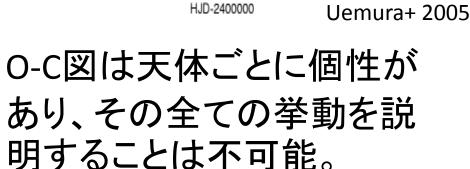
Superhump = superoutburst時に 出現する、軌道周期より数%長い 振幅0.2mag程度の準周期的変動





#### Superhump period change



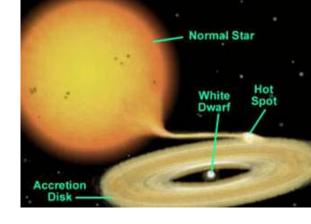


53210.8

更なる理解のためには静穏 時の光度曲線について知る 必要があるのでは?

## negative superhump

 最近の静穏時の観測で、軌道周期より 短い準周期的変動が発見される (例: V344 Lyr, ER UMa, FL Pscなど)。



- 静穏時の光度曲線は軌道周期(hot spot、eclipse)に起因する変動が主なものと考えられてきたため、新たな問題を提起することとなる。
- ●増光時の挙動を理解するために静穏時の観測をすれば 何か分かるかも?
- ●静穏時の観測は増光時と比べて著しく少ない。
- ●時代はpositiveからnegativeだ!
- → よし、やってみよう!

## OAO/MITSuME observations of SU UMa

- というわけで手始めにSU UMaを観測
- 2011年12月1日~2012年2月29日まで
- 合計夜数60夜以上、データ点20000×3

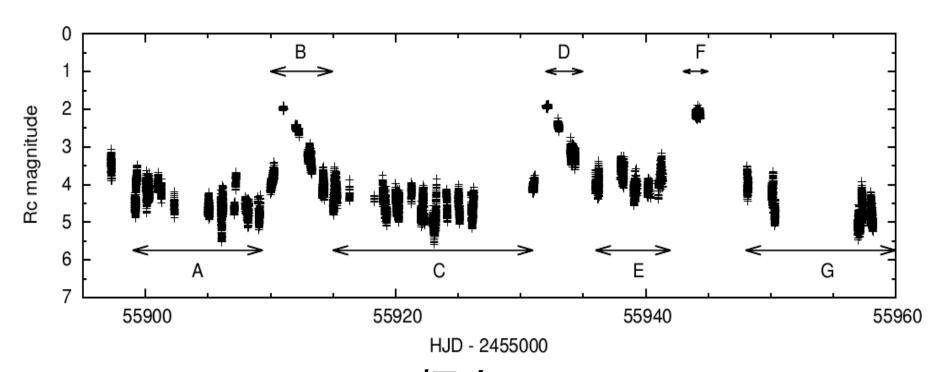
• 極小期でも15等くらいのため、50cmの口径なら静穏時の光度曲線がhigh S/Nで取得可能!

## おことわり

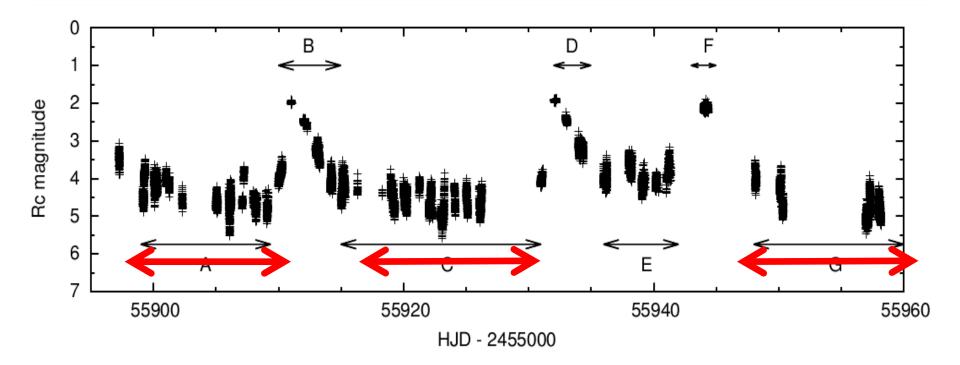
negative superhumpの確かな証拠 は得られなかったが、、、

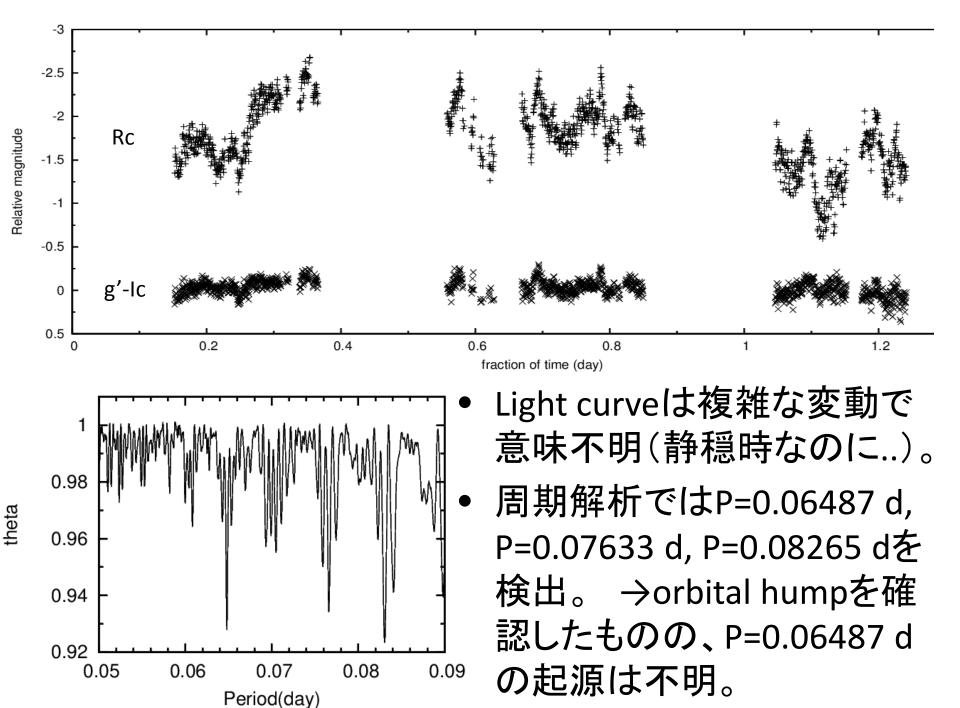
(タイトルではnegative、negativeと言っておきながら)

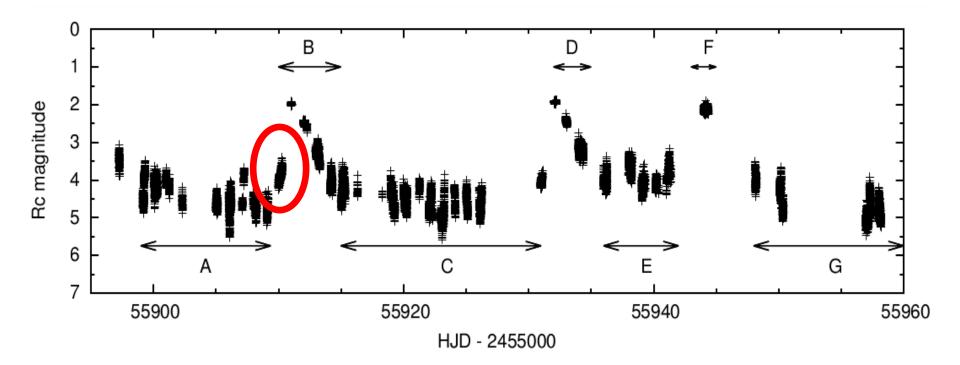
## Rc band light curve

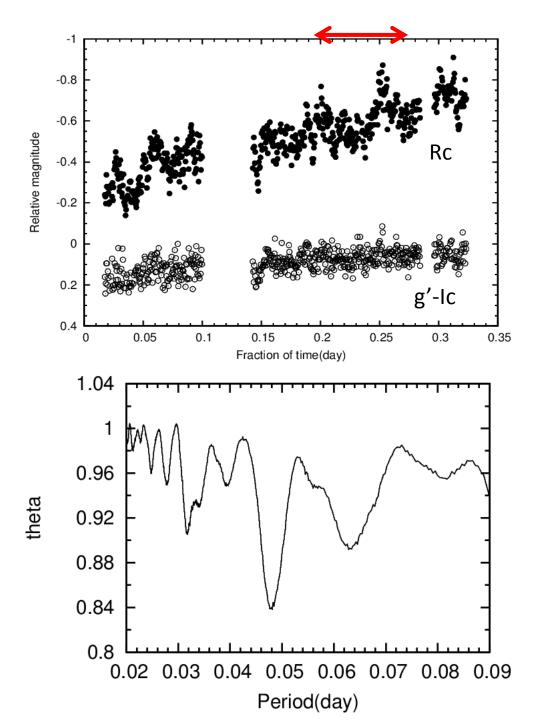


- Normal outburstの極大 t=15, t=36, t=48
- 静穏時中も緩やかに減光
- •「明るい静穏時」の存在
- Failed outburstの検出?





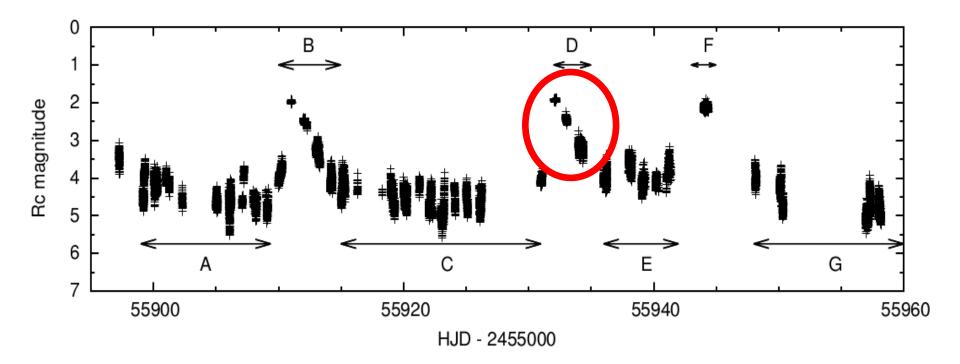




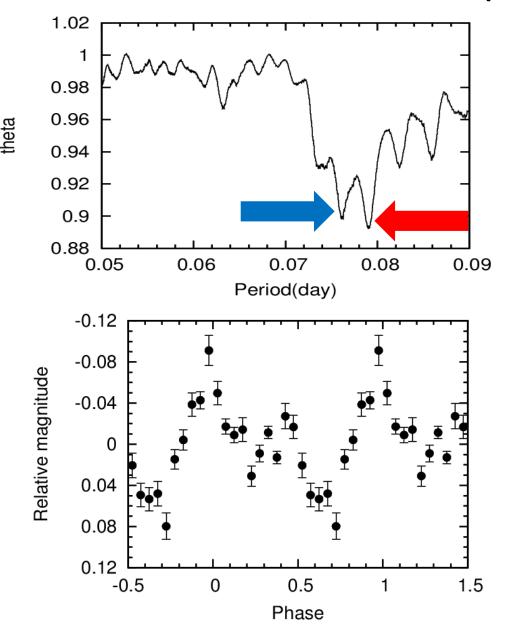
#### [增光開始直後]

dm/dt = -1.3 mag/d→相当小さい数値。

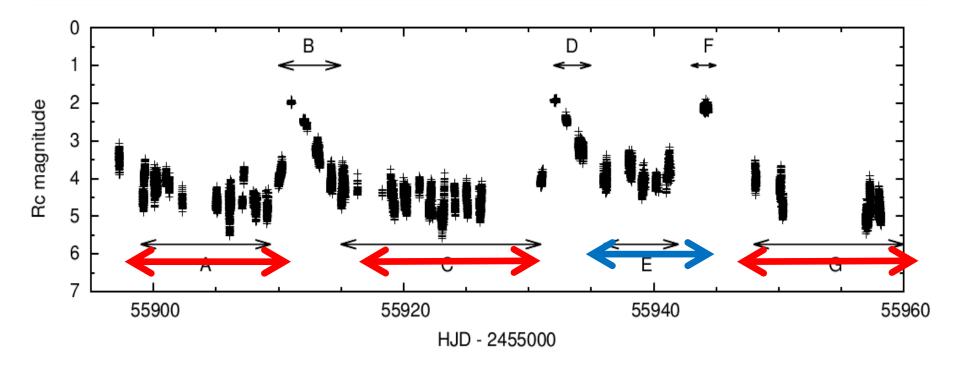
- P=0.048 d, P=0.032 d
- →P(orb)=0.07635 dと何 の関係もなさそう。
- ・増光とともにg'-lcは青くなる。



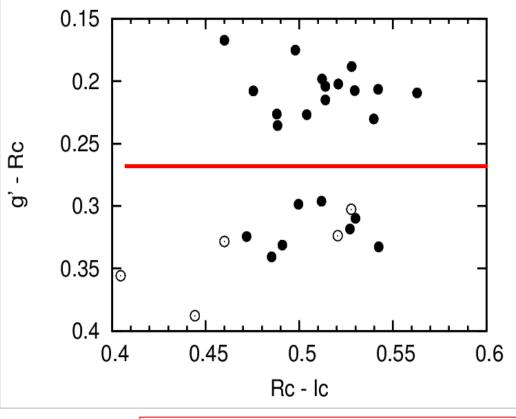
## normal outburst中にsuperhump発見か!?



- Normal outburstの 減光中に P=0.07903 d, P=0.07618 dの周期 を検出。
- →前者は
  superhump周期と
  一致!!(ちなみに後
  者は軌道周期より
  14秒短い)
- 下図: P=0.07903 d でfold。何となく superhumpの兆候 が見える



## color-color diagram during quiescence



- 白丸:明るい静穏時
- 黒丸: それ以外
- → 明るい静穏時は g'-Rcで赤い(g'だけ暗い)
- 赤線の上下、という 分類も可能だが?→赤線の下に位置

outburstの予測が可能!?

## まとめ

- 過去最大規模でのSU UMaの測光観測(人類の歴史上、 (多分)2番目?にSU UMaに詳しい人になりました)。
- 静穏時は2種類ある(明るい静穏時の存在)。
- 静穏時なのに大暴れ(negativeのヒントも)
- 増光の途中で起源不明の変動。
- normal outburst中にsuperhump発見か?
- 色変化で増光を予測可能?
- まだ間に合う! キャンペーン参加大歓迎! (近赤外のデータは特に魅力的)
- 次のターゲットは大島君の大好きなあの天体